

# セキュリティ状態を数値化

## IT体系図づくり

### 研究プロジェクト9月発足

「ロードバンドの普及に伴い、一般的でわかりやすいITセキュリティの体系を構築しようという試みが今年9月から行われる。取り組むのはNPO法人日本情報安全管理協会(東京都港区、佐藤健次事務局長、TEL03・57665767)。

この試みはセキュリティ体系の数値化を行うとともに、評価指標を設けてセキュリティ状態を数値化する試みとする。インターネットを使用する者が自分のセキュリティレベルを評価できる尺度を設けることを目的とし、誰にでもわかりやすい基準にするのが目標。

このための研究プロジェクトを9月に発足。名称は「ユビキタスネットワーク時代のセキュリティ体系の理解・評価指標の策定プロジェクト」(仮)。

プロジェクトは産官学の各メンバーで構成される予定で、東京大学生産技術研究所の今井秀樹教授や、総務省の大塚寿昭CIO補佐

「今までは経験による事後対応が主だったが、原因が不明なままに対処するためには体系的な対応が必要」と語り、評価指標を設けるべきと訴える。現在のセキュリティ体系では全体を俯瞰した体系図がないため、客観的な状態の把握が困難でどのような対策を施せばよいのかも曖昧。「体系の数値化ができれば、経営者が自身のセキュリティ状態を判断する目安が得ることになり大きな意味を持つ」と総務省大塚補佐は語る。

従来日本の情報セキュリティは「インシデントの問題」という個々の企業内の管理の問題として捉えられてきた。

現在国内のセキュリティ



発行所  
 セキュリティ産業新聞社  
 〒101-0051  
 東京都千代田区神田神保町1-41-1 三番倉第2ビル5階  
 電話 03-5282-8660  
 FAX 03-5282-8992  
 E-mail:nhu@secu354.co.jp  
 http://www.sec354.co.jp/

主な目次

- ☆特別企画 版元「日西日本」CIOの提言 2面
- 対談・学校と地域のセキュリティ対策の 3面
- ☆警察明人「早大教授」インタビュー 4-6面
- ☆情報セキュリティ特集 7面
- ☆独自の新聞誌 8面
- ☆緊急通報連絡・ホームネット

評価基準として日本情報処理開発協会(JIPDEC)の情報セキュリティマネジメントシステム(TISMS)があるが、これは英国BS7799を基に企業などのリスクを定めた環境での管理を想定して作られている。

TISMSはセキュリティの重要性を広く社会的な役割を十分に果たしてきたが、複数企業にまたがる関係環境やWBSA(TISMS)のオープンな世界

での管理ははめるのは困難なってきた背景がある。

2004年(平成16年)6月25日(金)

# セキュリティ産業新聞

発行所  
株式会社 セキュリティ産業新聞社  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町  
1-41-1 三省堂第2ビル5階  
電話 03-5282-8882(代)  
FAX 03-5282-8992  
E-mail:mitu@secu354.co.jp  
http://www.sec354.co.jp/

## 日本情報安全管理協会

NPO法人、日本情報安全管理協会  
会管理協会 東京都港区、  
佐藤健次事務局長、TEL 03  
・5765・7677(代)  
情報セキュリティの新たな

体系の標準化に取り組む。  
これは同協会のITセキュリティ部門が主導となって  
行うもの。

従来のセキュリティ体系  
ではセキュリティ全体を備  
置した体系図がないため、  
複数企業にまたがる関係環

境もWEBサービスなどの  
オープンな世界での管理が  
当てはめるのは困難となっ  
てきた。

そのための同協会は、9月  
までの研究会を踏切し、新た  
な体系化の素顔に向けて活  
動を開始する。研究会の名  
称は、現段階ではまだ仮名  
称だが「ユビキタスネット  
ワーク時代のセキュリティ  
体系と評価基準値の策定プ  
ロジェクト」。

同プロジェクトではセキ  
ュリティ全体を俯瞰的に見  
た体系を構築し、評価基準  
値を設けて数値化する。  
同協会の中橋治理事は  
「誰にでもわかりやすい体  
系を作り、それによりセキ  
ュリティ状態を数値化し、  
セキュリティ体系の標準化  
を作りたい。」と語る。

今後の予定は今年8月中  
旬までにメンバーの確定を  
行い、9月1日に第1回プ  
ロジェクト総会を開催。そ  
の後は毎月1回程度の割合  
でワーキンググループを開  
催する。来年3月に最終取  
りまとめを行う予定。

また、同協会の会員でも  
あるトラステッドソリュー  
ションズ(東京都中央区、  
杉原英文社長)は分散情報  
管理を提唱している。これ  
は個々のデータを暗号化し  
ながら複数のデータに分散  
し保存する秘密分散法を利  
用したもので、秘密情報の  
共有化と保護という相反す  
る概念を同時に表現する。  
これも複数企業での協業開  
発などの次世代のネットワ  
ークモデルをサポートする  
暗号化技術。同社が「Sma  
rt AND Protect」を一  
貫した取り組みの経緯がある

新しいネットワークとセキ  
ュリティを提供する。新セ  
キュリティ体系の標準化に  
向けても技術的な支援を行  
っていく。

同協会他にも通信研究  
部門にて盗聴対策について  
の活動を行っている。